

平成21年度第2回平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成22年3月18日(木) 14時～15時40分
開催場所 平塚市美術館 ミュージアムホール
出席者 (敬称略)
会長 山梨 俊夫
副会長 滝波 重人
委員 木下 一士、今関 健司、平野恵美子、望月 正大
事務局 栗原社会教育部長、草薙 館長、小澤副館長、土方館長代理、伊藤主管、
小池学芸員、勝山学芸員、江口学芸員、安部学芸員、野村主査

傍聴者 なし

会議の概要

- 1 開会
- 2 社会教育部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 議題

(1) 平成21年度事業報告

I 展覧会、II 作品・資料、III 教育普及活動、IV その他の事業、について各担当から報告する。

[質疑応答]

委員 今年度の企画展、特にカーデザイン展は斬新で、新しい客層をつかんだと思う。

事務局 カーデザイン展では、普段の展覧会では見られない30・40・50歳代の男性が多く来館しており、また、カーデザイン展、ちひろは、初めて当館に来館したお客様が多かった。そういった意味で今年度のような展覧会の組み方は、今後の潮流といたしたい。カーデザイン展は、展示品の借主の厚意で展示室内での写真撮影が許可されていた。これも前例がないことだが、著作権やシャッター音を気にされるお客様がいるので、撮影可能な展覧会を設けることは、至難である。

委員 公民館など、公共施設に美術館専用の看板を設置してはどうか。

事務局 新庁舎建設時には、博物館・美術館の展覧会を紹介できるコーナーの設置を検討しているが、現庁舎ではスペースの確保が難しい。

委員 学校内で美術館のホームページへのリンクを設けたら、多い時で1日300～400件のアクセスがあることがわかった。他校にもホームページへのリンクを勧めてよいか。

事務局 ぜひ、お願いしたい。

委員 II 作品・資料の(1) 作品収集の資料について、作品の大きさ(縦・横・奥行)の欄を表中に設けてほしい。

事務局 次回から掲載します。

委員 II 作品・資料の(4) 作品修復・保存について、どのような処理をしているのか。

事務局 今年度の修復作品8点のうち、7点は野外彫刻で例年行っているメンテナンスである。もう1点は鳥海青児の《ピカドール》で、劣化が目立つため、優先的に処理をした。なお、他にも修復が必要な作品があるが、予算との兼ね合いや展覧会の内容(展示の支障)によって順位を決めている。

委員 団体向け研修について、2009年10月18日(日)に「JTB主催 外国人報道記者団」とあるが、こういった主旨のものか。

事務局 たまたま、カーデザイン展の期間中に開催されていた東京モーターショーのオプションツアーとして来館した。

委員 テーマホールで、ミニライブやコンサートを行っているが、アートギャラリー内でのコンサートは可能なのか。音楽も展示の一部と位置づけるアートもあるので考慮してほしい。

- 事務局 日本の美術館の観覧者は、静寂の中で作品を見ることを求める傾向にあり、子供の泣き声でもクレームをつけることがある。また、音楽の種類（クラシック、ロックなど）や音量の基準も様々なので、今後の検討課題である。
- 委員
事務局 ギャラリートークは、どのようなことを行っているか。
展示会場において、展示の見どころ、作品や作家についての解説を行っている。各回の終了時に質問攻めにあうこともあるが、観覧者の生の声が聞けるので、良い機会ととらえている。
- 委員
事務局 学生向けの職場体験を行っているようだが、どのような内容なのか。
当館の概要説明や受付での応対、監視員業務、管理・収蔵室等の見学を体験してもらっている。毎日の業務中のプログラムになるので、受入数がかなり限られているのが現状である。
- 委員
事務局 観覧者数のうち、大学生の来館が低いと思うが、何か対策をしているか。
うまくできていないのが現状である。夏のワークショップでも参加対象として募集したが、効果がなかった。ただ、カーデザイン展は、大学の授業の現地見学として使われている光景を館内でよく見かけた。
- 委員
事務局 展覧会とワークショップが連動した企画は行っているか。
今年度は、山本直彰展の御本人が、カーデザイン展においては、企業の担当部署が全面協力のもとにワークショップを開催し、盛況だった。
今後もこの形式は続けていく方向である。

(2) 平成 22 年度事業計画(案)

- I 展覧会、II 教育普及・その他の活動について各担当から報告する。
・質疑応答は特になし

(3) 平成22年度予算について

予算の概要を説明する。

[質疑応答]

- 委員 作品の購入予算は恒常的に配当されるようになったのか。
事務局 恒常的ではない。指定寄付行為があったため、たまたま、平成 22 年度予算に盛り込むことができた。
- 委員 美術館に多くの人が来るようになったが、予算的にその分増やしているのか。
事務局 市の財政状況が厳しいので、毎年度減っている。
委員 予算がどのように推移しているか、表にしたものを会議資料としてほしい。
事務局 次年度の会議では、会議資料を変更する。

(4) 使用料の改正について

改正する使用料を説明する。

[質疑応答]

- 委員 市内 60 歳以上の観覧料無料が 65 歳以上に引き上げたことで、苦情がきたか。
事務局 受付に意見として言って行かれる方がいるが、社会情勢として 65 歳が目安になっているせいか、苦情としての処理までは至っていない。
- 委員 夏休み期間の高校生を無料にできないか。また、学校で夏休みの課題（レポートなど）として美術館に行くことを義務付けすることができないか。
事務局 県内の高校は、ほとんどが県立・私立であり、また、神奈川の博物館・美術館が同じ水準で行うことは難しいと考えられる。
ただし、今回の改正で当館が毎週土曜日の高校生が無料になるので、当館へ足を運んでもらうよう周知したい。
- 委員 (意見) 教育現場から上記の提案を大きな声にしていったらどうだろうか。

(5) その他について

[質疑応答]

委員 予算が限られている分、ボランティアを活用できないか。

事務局 ボランティアを育てるには、時間と、育成のための専任職員が必要になる。特に専任職員については、職員数が減らされているため、どこの美術館でも職員を充てることができないでいる。そこで、現時点では、友の会の運営方法を変え、その中でボランティアの運営方法も検討して行くことを考えている。

委員 段階的に進めるのは理解できるが、何か工夫することは考えているのか。

事務局 まずは、強力なリーダー（けん引役）の発掘と育成に努めたい。

委員 館としてだけでなく、各学芸員の調査研究報告（図録等への寄稿、研究成果、論文等）を、ぜひ報告してほしい。具体的に、どのような実績があり、今後、どのように展開されるのかがわかるので…。

事務局 今後、提示していきたい。

6 閉会 草薙館長のあいさつ

次回の協議会は22年9月に予定。

以上